

申請日 平成30年7月31日

「はなやか KANSAI 魅力アップアワード」事務局 御中

団体名 ○○○の里づくり推進協議会
所在地 ○○県○○郡○○町○○ 民宿○○内
代表者役職・氏名 会 長 ○○○○

第3回はなやか KANSAI 魅力アップアワード応募シート

第3回「はなやか KANSAI 魅力アップアワード」について、下記のとおり応募します。

1. 基本情報（平成30年7月現在）

団体名	○○○の里づくり推進協議会		
代表者名	○○○○（役職）会 長		
所在地	○○県○○郡○○町○○ 民宿○○内		
設立年月日	平成 5 年 1 0 月 5 日	スタッフ数	5 人（会員数 5 0 人）
業 種	—	HP/URL	http://www.○○○○.co.jp/
担当者名	△△△△（所属・役職）広報担当		
電話番号	(○○) ○○-○○○○	E-mail	○○○○@○○○○.co.jp
応募事業での過去の受賞歴	○○新聞社主催「グリーンツーリズム大賞2010」優秀賞を受賞		

2. 事業・活動の名称

事業・活動の名称	農家民宿を中心とした外国人個人客へのグリーンツーリズム事業	
事業・活動のテーマ・分野 ※該当するテーマにレ点を、該当分野の番号に○印をお付けください。	☒ 訪日観光客の取込みに係る事業・活動 1 観光情報の発信・プロモーション ② 観光商品・サービスの造成 3 観光地づくりへの体制整備 4 観光人材の確保・育成	☐ 在住外国人の居住・生活サポートに資する事業・活動 1 きめ細かな生活サポート 2 コミュニティ・交流 3 学び、活躍できる環境づくり 4 ビジネスのしやすい環境整備

3. 事業・活動の展開状況

①背景と経緯	※事業・活動の目的と背景、取組みに至った経緯についてご記入ください。 ・〇〇県〇〇町〇〇地区は、かつて林業で栄えていましたが、人口流出が進み、小学校の廃校など、過疎化の問題を抱え、限界集落と言われる地域でした。 ・その脱却に向け、町では「水と緑と山村の景観」を生かした田舎暮らし体験交流事業を推進してきました。 ・その一環として、地区内の廃校した小学校の有効活用を地区住民で検討することとなり、〇〇地区では、小学校跡地活用のみならず、地区全体のむらおこしを進めるため、平成5年10月に「〇〇〇の里づくり推進協議会」を設立することとなりました。 ・〇〇大学の協力も得て、地区内のおもてなし資源を発掘し、「懐かしい木造校舎を活用した体験交流施設の整備」とともに、協議会では、棚田の田植え、稲刈り、山菜、キノコ採り、川魚のつかみ取り、炭焼き、木工教室など昔ながらの山村生活を体験するプログラムを提供してきました。 ・また、以前から取り組んできた地区住民による「芝桜の丘」は、現在では広大な敷地に色とりどりの芝桜が咲き誇り、開花時期には大勢の観光客が訪れる程の名所となっています。 ・里山の自然の中での山村体験や農家民宿での地元料理の提供を通じ、都会に住む人が癒しを感じるようなむらづくりに取り組む中で、訪れた留学生がSNSで〇〇地区を紹介し、大きな話題になったことが、インバウンド観光への取組のスタートになりました。 ・協議会では、これまでも協力を頂いている〇〇大学の指導の下、山村暮らし体験プログラムを提供してきた地区住民や農家民宿経営者とともに、外国人受入れ環境整備についてのワークショップを開催したり、簡単な日常会話（英語・日本語）の指差しツールの作成などを実施しました。 ・また、国の補助事業を活用し、サイクリング施設の整備やハイキングロードの整備、地域の魅力を紹介する多言語マップやサインの整備を進めてきました。 ・現地旅行エージェント、個人旅行者向け海外旅行社からの引き合いやタイアップにより、外国人客が年々増加しています。
②事業・活動の内容	※事業・活動の内容をご記入ください。 ・白壁・黒瓦の古民家、囲炉裏のある農家民宿での地元料理でおもてなし ・サイクリングとトレッキングでの自然や山村生活を体験できる様々なツアーの企画・実施

②事業・活動の内容	・里山の管理と山道整備ボランティアツアーの実施（外国人の参加もある） ・インターネット及び外国人旅行者向けサイトを活用したプロモーション ○取組の実施期間（平成18年5月～現在）
③事業・活動の特徴・アピールポイント	※事業・活動の工夫や独自性などの特徴やアピールポイントをご記入ください。 ・「限界集落」といわれるほどの地区であったが、地区住民の力を結集し、世界に誇れる日本の原風景の発信と伝統的な山村生活をまるごと体験して頂き、地元食と地域住民の人柄でおもてなし。 ・空き家等を活用したゲストハウスの整備に当たっては、白壁・黒瓦に統一し、昔ながらの景観を大切にしています。 ・夕日が映る棚田や花の絨毯のように敷き詰められた芝桜、白壁・黒瓦の古民家が点在する美しい山村の眺望を見渡せる里山への山道、沿道を彩る花木や外国語表記の案内板は、地区住民の手により整備したものです。美しい自然を保全しながら、磨きをかけることで、外国人を含む来訪者を迎えています。 ・毎年恒例の芝桜の植樹や山道整備には、ボランティアツアーを企画し、第二のふるさととして地区を愛して頂いているファンやリピーターとして来訪してくれる外国人と地区住民が一緒になって、景観整備をしています。汗をかいた後の地元料理は格別との声とともに、地区住民との交流を深めています。 ・また、来訪者との交流が進化する中で、来訪者の有志の提案により、途絶えていた伝統行事が今年から復活するなど、来訪者参加型のむらおこしが進んできています。
④実施・運営体制	※事業・活動の実施・運営体制をご記入ください。また、関係者・関係機関、地域住民との連携・協力などの関係性についてもご記入ください。 ・〇〇地区のむらづくりを推進する任意団体ですが、都市住民や児童・生徒の山村体験や企業等の研修、近年の外国人受け入れを実施し、スタッフ5名で企画・運営を行っています。スタッフの1名は、外国人受入れの契機となった元留学生で、海外への情報発信と外国人向けプログラムの企画やガイド役としても活躍しています。 ・〇〇地区の祭りなどの伝統行事やイベント時には、〇〇大学の学生をはじめ、多くのボランティアの協力を得て、外国人観光客への案内なども行われています。

④実施・運営体制	実施・運営体制 <pre> graph TD A["○○○町 ○○○町観光協会"] -- 連携 --> E["○○○の里づくり 推進協議会"] B["○○大学"] -- 協力・指導 --> E E <--> C["○○体験交流 施設 (小学校跡 地活用施設)"] E <--> D["森林組合 J A 支所"] E --> F["農家民宿 (25 軒)"] E --> G["地区住民 ボランティア"] </pre>
⑤事業・活動の成果	※これまでの利用状況や今後の利用見込み、取組み事業・活動がもたらす地域への波及効果など、事業・活動の成果についてご記入ください。 ・外国人受け入れ環境の整備をスタートした平成 18 年は、欧米の個人客を中心に 120 名が農家民宿を利用して頂きましたが、平成 29 年には、欧米のみならず各国・地域から 2,850 人の利用と 24 倍になりました。個人旅行者向け海外旅行社からの引き合いも増加しており、今後とも増加する見込みです。 ・当地区では、近年の観光によるむらづくりの進展と相まって、Uターンし、農家レストラン等を経営するUターン者も増えてきています。 ・また、当地区の隣の△△地区でも農家民宿が増加しており、他地区にも波及してきています。 ・さらに、以前から地区住民による「芝桜の丘」整備に取り組んでいましたが、外国人の受け入れ環境の進展とともに、環境や景観の保全活動がより一層活発化し、白壁・黒瓦の古民家改修や沿道や庭先への花木の植樹など美しいむらづくりが進展しています。 ※利用者（外国人）からの声をお聞きの場合、感想の主な内容をご記入ください。 ・「日本の原風景と伝統的な山村生活、食文化を満喫できたことや何よりも地域住民との交流により、ここに住んでみたいという気持ちにさせられた」との感謝の声を聞きます。また、近年、リピーターも増えてきています。

	※これまでの利用状況や今後の利用見込み（外国人観光客、国内観光客の利用数（訪日観光客の取込みに係る事業・活動の場合）、相談件数、イベント等の集客数、サイト等へのアクセス数）などの数値情報をご記入ください。 ・当地区の農家民宿宿泊客数は、 ・平成 18 年 外国人客 120 名 国内客 4,200 人 ・平成 19 年 外国人客 450 名 国内客 4,150 人 ・平成 20 年 外国人客 750 名 国内客 4,320 人 ・平成 21 年 外国人客 820 名 国内客 4,520 人 ・平成 22 年 外国人客 1,230 名 国内客 4,600 人 ・平成 23 年 外国人客 1,650 名 国内客 4,870 人 ・平成 24 年 外国人客 1,750 名 国内客 4,560 人 ・平成 25 年 外国人客 1,800 名 国内客 4,800 人 ・平成 26 年 外国人客 1,950 名 国内客 5,120 人 ・平成 27 年 外国人客 2,200 名 国内客 5,200 人 ・平成 28 年 外国人客 2,500 名 国内客 5,500 人 ・平成 29 年 外国人客 2,850 名 国内客 5,700 人 ※マスコミ等の取材、他地域からの視察や研修等の受け入れがありましたら、取材先と件数、受け入れ先と人数等をご記入ください。 ・英国 B B C の取材・放映（平成 25 年 5 月 7 日） ・観光庁の視察・取材（平成 26 年 5 月 20 日） ・「日本で最も美しい村連合」加盟自治体の視察 5 件 ・〇〇新聞への掲載（平成 29 年 7 月 30 日付）
--	---

4. 取組上の課題と今後の展開

取組上の課題及び 今後の展開	※取組みを行う上で直面する課題がございましたらご記入ください。また、事業の今後の展開についてもご記入ください。 ・近年の訪日観光客は、日本の文化や生活に触れることのできる体験型観光へと訪日目的が変化してきており、当地区への来訪は、今後とも増加することが期待されますが、英語でのやりとりが以前にも増して必要になってきています。英語での対応が可能なスタッフが 2 名いますが、人手は慢性的に不足しています。 ・収益性を高め、外国人への充実したサービスが提供できるようスタッフの充実や人材育成が大きな課題となっています。 ・また、本町だけではなく近隣市町村や隣接県とも連携し、1 泊だけではなく、2 泊、3 泊と連泊していただけるような商品造成が行われるよう、自治体・地元・関連機関が連携し、実現していくことが必要と考えています。
---------------------------	---